

自己評価報告書

平成23年 4月29日現在

機関番号：32685

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20720063

研究課題名(和文) 『本朝孝子伝』研究 —— 「孝」から見た近世前期文学の再検討

研究課題名(英文) The research of "Honchou koushi den" —restudying the literature of early Edo period from the sight of "kou"

研究代表者 勝又 基 (KATSUMATA MOTOI)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：00409533

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：孝、日本近世文学、孝子伝、孝子表彰

1. 研究計画の概要

(A) 『本朝孝子伝』における仏教批判と古典の再評価についての考察。

(B) 著者・藤井懶斎の伝記研究。

(C) 『本朝孝子伝』テキスト整備と注釈。

(応用研究) 大名と孝子伝との関わり。

2. 研究の進捗状況

(A) 『本朝孝子伝』における仏教批判と古典の再評価についての考察については、未発表ながら着実に準備を進めて来た。基礎的な作業と肉付けのための周辺調査をほぼ終え、2011年度には論文の形で発表予定である。

(B) 藤井懶斎の伝記研究は、「藤井懶斎年譜稿」という連載で、逐次学術論文として発表している。彼の93歳までの生涯のうち、第1回は誕生から29歳まで、第2回は30歳から60歳まで、第3回は61歳から71歳まで、第4回は72歳から81歳までを明らかにした。それぞれに従来明らかでなかった新事実を盛り込み、また近世前期の文学全体を考え直すための視点を盛り込んだつもりである。なお彼の年譜連載は4回で完結する予定であったが、新資料の出現などにより記載内容が増えたため、予定を変更して2011年度の完結を目指すこととした。

(C) については未発表ながら着実に作業を進めている。『本朝孝子伝』は全5部構成であるが、2008年度に「天子」「公卿」部、2009年度に「士庶」部、2010年度に「婦女」部の注釈作業を終えた。残すは最終部「今世」部のみである。

また、応用研究として「大名と孝子伝」というテーマを加えた。福知山藩・島原藩主を

つとめた松平忠房については「松平忠房の孝子伝」として、会津藩主・保科正之については「偽キリシタン伝の流転」として雑誌論文に発表した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(B) において、新資料の出現により研究内容が増えたこと以外は計画通りに進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

(A) については調査は済んでいるので速やかに学術論文の形で発表する。(B) については今年度で連載を完結させる。(C) については「今世」部の調査を終え、『本朝孝子伝』全編の注釈を報告書としてまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

勝又基「藤井懶斎年譜稿(三)」(「明星大学研究紀要」2009 91-100)勝又基「日本近世における孝子表彰の発生」(「東アジア比較文化研究」2009 85-95)勝又基「松平忠房の孝子伝 —— 漢文孝子伝の役割と展開」(「近世文芸」91 2010 30-43)勝又基「講談「中江藤樹」の変容」(『講談と評弾』2010 19-35)勝又基「近世前期における仮名教訓書の執筆・出版と女性」(「民衆史研究」79 2010 1-11)勝又基「藤井懶斎年譜稿(四)」(「明星大学研

究紀要」2011 41-53)

勝又基「偽キリシタン兄弟事件の流転」(「金沢
大学国語国文」36 2011 48-58)

〔学会発表〕(計7件)

勝又基「日本近世の孝子説話における表彰の
役割」(2008.6.14 東アジア比較文化国際会議)

勝又基「近世孝子伝のはじまり」(2008.6.29 日
本文学協会研究発表大会)

勝又基「『本朝孝子伝』と『古今大著聞集』」
(2009.10.3 金沢大学国語国分学会)

勝又基「高山彦九郎と若狭の孝子」(2010.8.28
北陸古典研究会)

勝又基「講談の中の孝子伝に見る中江藤樹」
(2010.9.25 中江藤樹心のセミナー)

勝又基「高山彦九郎と新島の孝子」(2010.10.2
金沢大学国語国文学会)

勝又基「高山彦九郎と孝子伝」(2010.12.23 九
州近世文学研究会)